

小論文問題用紙

次の文章を読んで、言葉の二面性について考えたことを述べてください。字数は七〇〇字以上八〇〇字以下とします。

例えば、日本語は雨を始めとして、空気中の水蒸気の状態に関する多種の語があることや、また、魚の詳細な命名で知られる。これは日本列島に棲息した先人がその自然的条件、およびそこでの生存に不可欠な生産活動をする上での条件の中から、ものや事象を見出したり、その或る部分・側面に着目して、それに名を付け、言葉を発達させてきたということである。後人としての日本人はこれらの語を手掛かりに外界を認知・認識し、時にはそこにいくばくかの追加や変更をしながら、生存を維持して来た。

言葉は私達の外界認識において、このように生産的に、指針として働くということが出来る。しかし、「指針」ということは良くも悪くも、方向づけをするという程度の、概括的な意味合いで、まず捉えることができる。行動する上での、手掛かり、道具としての働きと言ってもよい。そこには積極的な指針として働く面と、他方、ネガティブに、人の意識を拘束する形で働く面とがある。

この、ネガティブに働くとはいかに生じるのか。言葉とは、共同体のメンバー間でのコミュニケーションを図るための約束事として、現時点で、作られたものではない。先人の遺産として、私達に与えられたものである。逆に言えば、他には何もない。いくつかある中から、選択したのではない。良くも悪くもお仕着せで、つまり、所与として、ということである。物質的な遺産であれば、拒否もできようものだが、これは選択の余地なく、受け取らねばならなかったものである。当然、その言葉に託された、先人の精神の営みをも、それと意識せず、引き受けることになる。その営みには当然、或る時代状況が反映されているものがある。

ところが、或る時代に意識され、概念が作られ、記号を得て、言葉として定着したものは、その有形性ゆえに、後の世の人々の精神作用にも影響を及ぼしていく。或る時代状況の中で必要不可欠なものとして作られた概念や言葉が時代状況が変わつての後世の人々の意識を拘束していくという図式ができれば、これが言葉を使うということに付随して現われる弊害の二つ目として挙げられる点となる。

(氏家洋子『言語文化学の視点』による)

※出題の都合により、一部改変した箇所があります。